

## 1. あらためて「日本共産党は何をめざしているのか」 綱領の要点

- 1章「戦前の日本社会と日本共産党」
  - ◇ 戦前の社会は、天皇が絶対的な権力をもち、国民は無権利状態。アジア諸国に対する植民地支配と侵略戦争の道を進んだ
  - ◇ 日本共産党は、国民主権、平和と民主主義の実現のために不屈にたたかい続け、戦後日本国憲法に突った
- 2章「現在の日本社会の特質」
  - ◇ 現在の日本社会には2つの大きなゆがみがあり、日本社会と日本国民とのあいだで矛盾を広げている
  - ◇ 「異常なアメリカいいなり」…米軍基地が全国にあり、沖縄がアジア最大の軍事基地とされ、日米一体で「戦争国家」づくりの道をすすむ
  - ◇ 「大企業・財界最優先」…国民の生活と権利について、ヨーロッパなどで常識となっている社会的ルールが確立されていない
- 3章「21世紀の世界」
  - ◇ 「世界の構造変化」= 20世紀(1901年～2000年)に、植民地支配のもとにおかれていた国が主権国家として独立し、世界地図が大きく塗り変わった
  - ◇ 新たに独立を勝ち取った国々は、21世紀のいま、国際政治で平和と進歩を促進する大きな力を発揮している
  - ◇ 日本共産党は、大国(アメリカ・中国・ロシア)の横暴を許さず、国連憲章にもとづく平和の国際秩序を築こうと働きかけている
- 4章「民主主義革命と民主連合政府」
  - ◇ 「民主主義革命」= 日本共産党が目指す当面の改革は ▼アメリカいいなり、財界・大企業のもうけ最優先という2つの大きなゆがみを ▼立場をこえた共同=統一戦線の力で変える
  - ◇ この改革は、選挙を通じて議会の多数を得ることで民主連合政府を樹立してすすめる(暴力革命路線を否定)
  - ◇ 「国民が主人公」ですすむこの改革を、日本共産党は不屈性・先見性を発揮して推進する
- 5章「社会主義・共産主義の社会をめざして」
  - ◇ いま、世界的規模で格差が広がり、地球的規模で気候危機がすすんでいる。人類の歴史は、矛盾にみちた資本主義で終わりではない
  - ◇ 日本共産党は、資本主義の矛盾をのりこえ、「人間の自由」があらゆる意味で豊かに保障され開花する社会——社会主義・共産主義の社会をめざす
  - ◇ 「人間の自由」こそ社会主義・共産主義の目的であり、最大の特質
- 綱領は、「日本共産党は何のために存在しているのか」、「日本共産党員は何を共通目標として集まっているのか」そのもの。

## 2. 綱領の目からみた2025年 (1)自民党政治の行き詰まり

### ① 自民・公明で過半数割れ——2024年総選挙での国民の怒りの審判

#### ◇ 裏金問題への怒りが第一

なぜ裏金問題へ怒るのか…「私たちがこんな大変なのに自民党は！」  
根本には綱領が指摘した、国民と日本社会のゆがみとの間の矛盾

#### ◇ 日本社会の大きなゆがみ①「財界・大企業のもうけ最優先」

- 裏金事件の再発防止に必要なのは「企業・団体献金の全面禁止」  
「わいろ」は禁止されているのに、なぜ企業献金は良いのか？

総選挙後も全面禁止は拒否の自民党、ブレーキかけた国民民主

- 物価高騰、暮らしと営業の困難。なのに政府は無為無策  
総選挙のあとの補正予算で、半導体企業へ1・3兆円補助金
- 何があっても止めない外環道工事。同様のトンネル工事による被害が、リニア工事で町田・品川・岐阜で、今後予定される京都の新幹線延伸工事でも問題に。どこでも「調布のような被害が！」
- 「103万円の壁」はじめ、財源論の混迷…他与野党みんな！！  
自公…防衛予算倍化のために全予算が大変  
立憲…財源が示せないなので経済政策の規模が小さい  
国民…財源は与党が考えて(無責任)

れいわ…財源は国が借金すれば済む(無責任)

共産…大企業富裕層優遇をただし財源41兆円(うち18兆は単発)

#### ◇ 日本社会の大きなゆがみ②「アメリカいいなり」

- 年間5兆円から10兆円へ防衛費を増やす大軍拡を止めない  
総選挙のあとの「補正」予算で防衛費8268億円、過去最高
- 沖縄辺野古基地の建設強行、ミサイルはじめ戦争のための正面装備、戦争に備えた自衛隊基地の強靱化工事が着々——戦後初めて、戦闘機を載せる「空母」が自衛隊に配備目前(試験は成功)
- イスラエルのパレスチナ虐殺は、アメリカの支援があつてこそ。アメリカに虐殺辞めろと言えない日本の外交。欧米がイスラエルを擁護するせいで、ロシアのウクライナ侵略批判に説得力がない
- 日本被団協がノーベル平和章を受賞しても、アメリカの「核の傘」を守るため、「核兵器禁止条約」参加を言えない日本の外交

### ② 2024年総選挙で有権者は、自民党に代わる政治を選んでいない

#### ◇ 立憲民主党は実は得票を減らしている

「議席は伸ばしたが比例は伸びていない。深刻に考えている。都議選、参院選が正念場だ」

#### ◇ 6月都議選と7月参院選…自民・公明にノーで参院過半数割れへ！

#### ◇ 各党がふるいにかけてられる。国民の願いに応えることと、共産党にし か示せない綱領に立った展望を伝える！

### 3. 綱領の目からみた2025年 (2)被団協のノーベル平和賞と共産党の主張

- ① 日本被団協のノーベル平和賞受賞 … 被爆者の歴史的貢献は ▼核兵器の非人道性を身をもって世界に訴え ▼「核抑止」一辺倒だった核軍縮交渉に、「人道的アプローチ」という人間の血がかよった新たな観点をもたらし ▼核兵器禁止条約への道を開いた
  
- ② マスコミの変化。世論も変わりうる
  - ◇ もとから「軍事ブロック対立があたりまえ」、「日米同盟絶対」だったマスコミが、ノーベル平和章で変化しはじめている
  - ◇ 2022年2月のロシアのウクライナ侵略以来、“対話より武力”の世論が急激に強まって、日本共産党は翌年市議選でも大変苦しめられた
  
- ③ アメリカの調査会社が「今年の10大リスク」の1位は「Gゼロ」(NHK1/7)
  - ◇ G7(米 英 仏 独 加 伊 日)ではいよいよ世界を主導できない
  - ◇ G192 すべての国が主人公に … 日本共産党が20年間重視し続けた世界の「もうひとつの流れ」が主流に ▼小さな国が主人公 ▼軍事ブロックに頼らない非同盟と、平和の地域共同体づくり ▼強い国がルールではない、国連憲章が唯一の平和の指針

以上

★次回は「共産主義と自由」カフェ (平野)

2/15(土) ①10時半～調布市委員会 ②14時～狛江市委員会

過去の録画

①党綱領前半



②党綱領後半



③科学的社会主義

